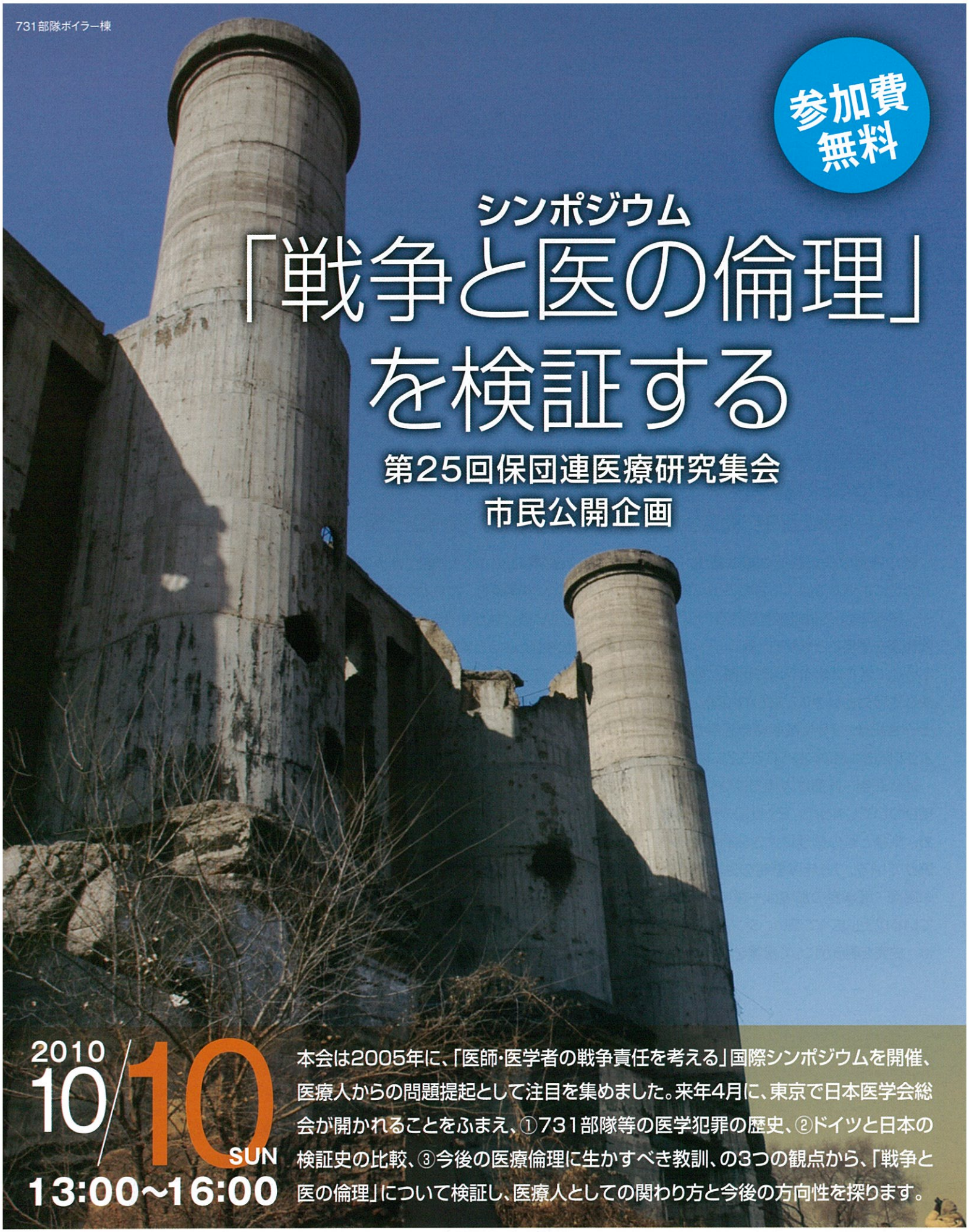

参加費無料

シンポジウム

「戦争と医の倫理」を検証する

第25回保団連医療研究集会 市民公開企画

2010 10/10 SUN

13:00~16:00

本会は2005年に、「医師・医学者の戦争責任を考える」国際シンポジウムを開催、医療人からの問題提起として注目を集めました。来年4月に、東京で日本医学会総会が開かれることをふまえ、①731部隊等の医学犯罪の歴史、②ドイツと日本の検証史の比較、③今後の医療倫理に生かすべき教訓、の3つの観点から、「戦争と医の倫理」について検証し、医療人としての関わり方と今後の方向性を探ります。

主催

国民医療の向上をめざす
全国保険医団体連合会
東京都渋谷区代々木 2-5-5 新宿農協会館 6F
TEL.03-3375-5121 FAX.03-3375-1885

シンポジウム

「戦争と医の倫理」を検証する

第25回保団連医療研究集会
市民公開企画

◎コーディネーター◎
滋賀医科大学名誉教授　西山　勝夫氏

◎パネリスト◎

15年戦争における日本人医師の戦争医学犯罪

京都民医連中央病院院長 吉中 丈志氏

緒方洪庵の扶氏医戒之略は言う。一、医の世に生活するは人に為のみ（以下略）一、病者に対しては唯病者を見るべし。貴賤貧富を顧ることなかれ（同）、一、其術を行ふに当ては病者を以て正鵠とすべし。決して弓矢となすことなかれ（同）。およそ一世紀後、15年戦争時の医学犯罪によって医戒は踏みにじられることになる。

近代医学・医療は人権ではなく戦争に結びついてしまった。21世紀の現在もなお、戦争と医の倫理は大きな課題であり続けている。15年戦争時の医学犯罪への医師・医学者の加担は一般に考えられている以上に広くて深い。シンポジウムでは、史実を明らかにして議論を深めたい。

◎パネリスト◎

戦争医学犯罪の戦後
―― 日本とドイツ ――

上野メンタルクリニック院長 小俣 和一郎氏

731部隊などによる大規模で非人道的な過去の人体実験を、われわれは検証しようとしている。なぜだろうか? いや、何のために検証しようとするのか? また、なぜ今になって検証するのか? ―すでに戦後60年以上を経て、ドイツでは、同じくナチズム期の戦争医学犯罪の検証が終わりつつあるという。では、ドイツでは、戦後の検証がいち早く進み、日本では遅れたのだろうか? もし、そうであるのなら、それはなぜだろうか? ―われわれは、このような根本的な疑問に取り囲まれている。それに応えるためにも、戦後の検証が日本とドイツでどのように進められてきたのかの歴史を考えることが必須ではないだろうか。

◎パネリスト◎

医療倫理の確立のために不可欠な歴史検証

現代医療を考える会代表 山口 研一郎氏

日本の医学界は戦時中、731部隊など医学犯罪に手を染めた。敗戦後GHQによって、その事実が隠蔽され、その結果、戦後、数多くの薬害・医療被害が繰り返された。また、現代の先端医学は、脳死・臓器移植、生殖医療、遺伝子診断・操作、クローン技術、再生医療など、人間の尊厳に抵触する危険性を有する。今や、生命工学においては、人工細菌の作成、生物兵器への悪用も可能である。今日の医師（学者）には、生命や生物に対する冷徹な態度が必要とされ、過去の検証が不可欠である。

■山口氏の補足発言

東京海洋大学教授　小松　美彦氏
金沢大学医学部助教　打出　喜義氏
大阪市立大学准教授　土屋　貴志氏

会 場

都市センターホテル

東京都千代田区平河町 2-4-1
電話：03-3265-8211

●アクセス（電車）：
地下鉄有楽町線 麹町駅、徒歩３分
地下鉄有楽町線 永田町駅、徒歩４分
地下鉄丸ノ内線 赤坂見附駅、徒歩８分